

〔白氏長慶集 三十九〕貊屏贊 井序 貊也 白豹也

貊者象鼻犀目牛尾虎足生南方山谷中寢其皮辟瘟圖其形辟邪予舊病頭風每寢息常以小屏衛其首適遇畫工偶令寫之略下

〔改正月令博物笈 十二月〕節分 略

貊枕貊の枕 白澤といふ獸の事也 白樂天はいへり 節分の夜 貊の圖を畫て枕とすれば 惡夢を見ず 諸の邪鬼を避

所 事妙也 俗に 貊は 夢を 喰ふ 獸也 といふも 其外 諸の 怪しき もの 災を なす 事なし 萬一 怪しき 事ある かと 又は 怪しき 病人 あり ば 此 白澤 の 像 の 前 に て 呪文 を 唱ふ れば 白澤 の 像 を 賣る 也 世間 には 大坂 吉文字 屋市 左衛門 といへる 本屋 に て 五法 水 に て 寫したる 此 白澤 の 像 を 賣る 也 世間 には 守札 と 違ひ 涉世 錄 其外 諸書 に 出で 正しき 諸人 の 爲こゝに 記す にか けて 凶事 の 吉事 となり たる 事多し 依之 諸人 の 爲こゝに 記す

○按ズルニ、貊枕ノ事ハ、器用部枕篇ニ詳ナリ、

〔槐記續編〕享保十八年三月七日ヨリ至十七日 世上年越ノ夜、寶舟トテ畫ノ上ニ、ナガキヨノト

ヲノ子ブリノ皆目サメナミノリ舟ノ音ノヨキカナト云廻文ノ歌ハ古キコト也、俊頼ノ記ノ中ニアルカト思召ノ由也、略 後日ニ仰ラル、ハ、俊頼ノ記ニハアラズ、何ヤラナリ、俊頼ノ記トハシルスベカラザルノ由ヲ仰ラル、

〔嬉遊笑覽八 忌諱〕初夢、略 浮生ガ滑稽太平記に、略 中 たからの舟も浮ぶ泉水、玄 札この寶舟は、種々の寶を舟に積たる處を繪にかきて、ながきよのとをのねぶりのみなめざめなみのりふねのを

とのよきかな、といふ廻文の歌を書添で、元日か二日の夜敷寢に、惡き夢を川へ流す呪事なりとぞ、略 中 をとは音なるべければ、おとのかななり、廻文なれば、拘はらぬにや、いつの頃の歌ともい

まだ定かならず、略 中 また日本風土記、五 琴譜廻文詞として、この歌を載たり、略 中 なにを傳へて琴譜といへるか、そのかみ三弦などにて、此歌を彈たるにてもあるべし、

〔倭訓栞前編 十八〕とをのねぶり 回文の歌に見ゆ、此歌は聖德太子の、秦川勝が惡夢をけした

まふ呪歌なるよし、詠歌本紀に見え、全浙兵制にも載たれど心得がたし、